

難病医療従事者の教育・研修に関する研究

研究分担者 今井 富裕 独立行政法人国立病院機構箱根病院 神経筋・難病医療センター
研究協力者 津田 笑子 独立行政法人国立病院機構箱根病院 神経筋・難病医療センター

研究要旨

優先的に行なうべき教育や研修に必要なコンテンツの制作・収集を開始した。コンテンツ・動画は関連学会からも集めることにし、各コンテンツ視聴後に内容理解度を判断する設問画面を設置した。特定の教育・研修課題に複数のコンテンツを組み込み、課題ごとに受講証・修了証を発行するシステムを採用した。本システムによって難病コーディネーター（日本難病医療ネットワーク学会）、難病看護師（日本難病看護学会）の認定研修を行うことも検討した。今後は多職種のエデュケーション・研修のプラットフォームとしての機能を充実させ、ウェブサイトの管理・運営計画を再考する予定である。

A. 研究目的

難病診療に携わる多職種の医療従事者の研修体制を構築するため e-learning の制作を試みてきた。e-learning のコンテンツを制作する上での基本方針は、難病診療に特化した内容であること、医師向けではないこと、前年度のアンケート調査結果を活用して優先的に制作するテーマを決定することの3点に集約される。令和3年度は、優先的に行なうべき教育や研修に必要なコンテンツの制作・収集を開始した。

B. 研究方法

国立病院機構箱根病院内で、入院患者の日常生活動作にかかわるケアについて動画撮影を行った。撮影されたビデオ動画は難病患者ケアの教育・研修用に編集された。国立病院機構下志津病院・東埼玉病院との合同会議で提示されたリハビリテーション関連の動画もコンテンツ制作の参考にした。編集された臨床写真や動画は日本難病医療ネットワーク学会、日本難病看護学会、神経難病リハビリテーション研究会の3学会合同会議で検討した。

(倫理面への配慮)

動画制作にあたり、患者が登場する場合は匿名化を行い、個人が特定されないように配慮した。また、当該患者には文書で説明と同意を取得した。

C. 研究結果

具体的なコンテンツとして収集された写真や動画は、「着衣動作」「おむつ交換」「食事動作」であり、内容として、医療安全やリスク管理に関連する知識や技術が多く盛り込まれた。日本難病医療ネットワーク学会、日本難病看護学会、神経難病リハビリテーション研究会の3団体合同会議での動画コンテンツの検討から、難病に関する医療制度等はテキスト形式で掲載の方が学習しやすいと結論された。これにより、ウェブサイトのワイヤーフレームはフロント画面、ログイン画面、テキスト・動画一覧画面に改変された。今後はこれら関連3学会からもコンテンツとしてテキストや動画を集めることが有用であると結論した。さらに、各コンテンツ視聴後に内容理解度を判断する設問画面を設置すること、特定のテーマに複数のコンテンツを集約し、テーマごとに受講証・修了証を発行することも提案された。これによって、難病コーディネーター（日本難病医療ネットワーク学会）、難病看護師（日本難病看護学会）の認定研修ができると考えられた。神経難病リハビリテーション研究会のコンテンツとしては、より専門的なQ&A（視聴者からのQに対して、研究会の方でAをアップロードする）を企画することも提案された。

D. 考察

本システムでは、各コンテンツ視聴後に内容理解度を判断する設問画面を設置し、特定の教

育・研修課題に複数のコンテンツを組む形式とし、課題ごとに受講証・修了証を発行する機能を採用した。この形式であれば、難病コーディネーター（日本難病医療ネットワーク学会）や難病看護師（日本難病看護学会）等の学会資格の認定研修を行うこと可能である。今後、本システムは、多職種の教育・研修あるいは学会資格の認定研修のプラットフォームとして活用することを前提として機能を充実させていく予定である。

E. 結論

本年度は、優先的に学習すべき教育・研修内容として用いる写真や動画を収集し、具体的なコンテンツ制作を行った。より効率的に、かつ効果的な e-learning を制作するためには、多くの専門職種からコンテンツを収集する必要があると思われた。今後は多職種の教育・研修のプラットフォームとしての機能を充実させ、ウェブサイトの管理・運営計画を再考する必要がある。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定含む）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

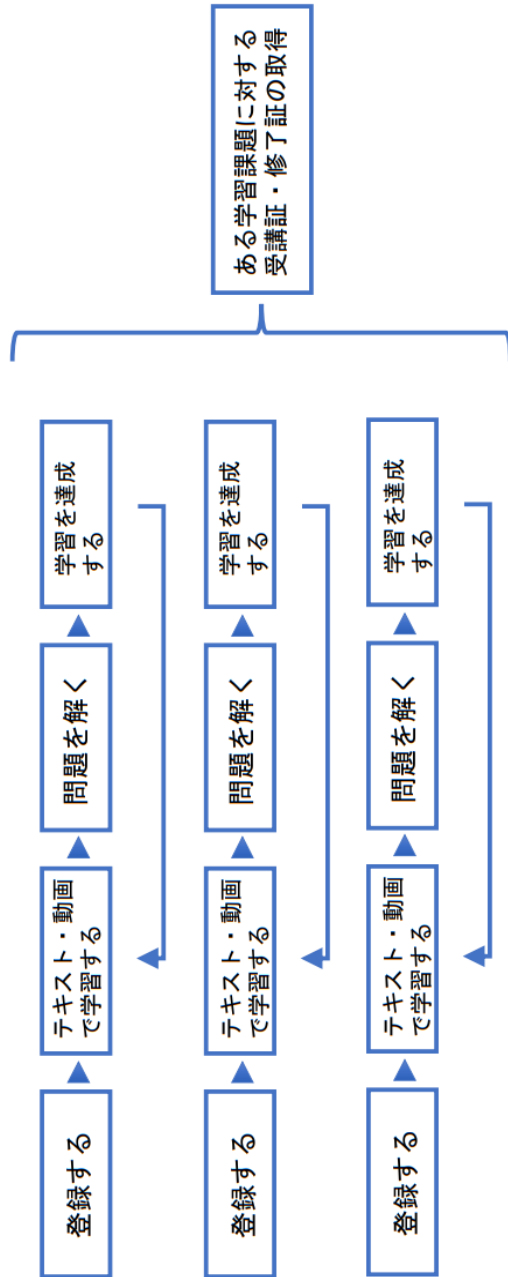
3. その他

該当なし

難病医療従事者の教育・研修に関する研究

- A. 研究目的
アンケート調査結果を活用して優先的に制作するテーマを決定し、現在難病にかかわっている従事者（以下、難病従事者）向けに難病診療に特化した内容のe-learningコンテンツを制作する。
- B. 研究方法
日常生活動作の中から、着衣動作、食事動作に注目し、国立病院機構箱根病院内で行われている難病ケアをビデオ撮影し、その内容について検討した。内容の必要性・妥当性を検証するために、難病支援に関する医療学術団体（日本難病ネットワーク学会、日本難病看護学会、神経難病リハビリテーション研究会との合同会議を行った。

図1. ウェブサイトの基本構造：ある学習課題に関するコンテンツのグループ化



- C. 結果と考察
あるテーマに関するコンテンツをグループ化して「学習課題」とし、学習課題ごとに1つの受講証あるいは修了証を発行する構造を採用する(図1)。これによって学会の認定や研修修了に適した構造になると思われる。今後は多職種の教育・研修のプラットフォームとしての機能を充実させ、ウェブサイトの管理・運営計画を再考する必要がある。